

鎌倉時代

日本の中心が変わった！

鎌倉で武家の政治がスタート

鎌倉は、源頼朝が1180(治承4)年に多くの兵を連れて鎌倉に入ってから、1333(元弘3)年に北条高時が自害して、幕府が滅亡するまで、約150年間繁栄した武士の都でした。

1159(平治元)年、平治の乱のときに平清盛に捕らえられ、20年間も伊豆に流されていた頼朝は、1180(治承4)年に平氏を倒そうと挙兵し鎌倉を本拠地とします。1185(文治元)年、頼朝は平氏を滅ぼし、各国に守護(地方官)、地頭(土地の管理や租税の徴収をした者)を配置。頼朝は、1192(建久3)年に征夷大將軍に任ぜられ、名実ともに鎌倉幕府が成立しました。幕府は棟梁である鎌倉殿と主従関係にある御家人とで構成される武家政権でした。

頼朝は鶴岡八幡宮を中心として、若宮大路を整備しました。1199(建久10)年に頼朝が死去すると、2代將軍頼家は、外祖父の北条時政や母の北条政子と対立します。時政は頼家を暗殺、弟の実朝が3代將軍になります。しかし、実朝は頼家の子・公暁に暗殺され、源氏の將軍は3代で断絶します。

幕府の指導者となった北条氏は、頼朝の遠縁にあたる藤原頼経を4代將軍として鎌倉に迎えました。3代執権北条泰時は、武家に関する法律である御成敗式目を制定し、和賀江嶋築港の支援、朝夷奈切通の整備などを行いました。さらに泰時は合議制で政務や裁判を行い、

しつ けん
執権政治の形を整えます。

8代執権北条時宗^{ときむね}のとき、元(モンゴル帝国)が二度日本を襲いましたが、元は二度とも撤退します。三度目の元の襲来に備えた西国の防備のために、御家人の経済的な負担が重くなり、幕府への不満が高まります。

ご だい ご てん のう
後醍醐天皇の討幕運動に呼応した新田義貞^{にっ た よし さだ}らが鎌倉を攻撃すると、14代執権北条高時^{たかとき}ら一門と家臣が自害して、鎌倉は陥落し、幕府は滅亡しました。



鶴岡八幡宮の舞殿(手前)と
大石段上の上宮

みなもとのさねとも

源実朝 1192(建久3)年～1219(建保7)年

12歳で征夷大將軍になった源実朝は、頼朝と北条政子の次男。
28歳のときに鶴岡八幡宮で甥の公暁に討ち取られます。歌人として
も知られ、〈世の中は つねにもがもな なぎさこぐ あまの
小舟の 綱手かなしも〉は、『小倉百人一首』に選ばれています。



1104(長治元)年

え がらてんじんしゃ
荏柄天神社

鮮やかな朱色の社殿が、山の緑に映える

福岡県の太宰府天満宮、京都府の北野天満宮とともに、日本三古天神に数えられる古社(諸説あり)。頼朝はこの社を大倉幕府の鬼門を守る鎮守社としました。朱色に塗られた社殿が華やかです。



すがわらのみちざねこう
天神(菅原道真公)に欠かせないウメの木がある

1180(治承4)年

つるがおかはち まん ぐう

鶴岡八幡宮

鎌倉の中心、上宮から若宮大路を一望に

平安時代、東北平定を果たした源頼義は、その帰路、鎌倉由比郷に源氏の氏神である石清水八幡宮を勧請しました。

それから約120年後の1180(治承4)年、頼義の子孫にあたる源頼朝が鎌倉に入ってきたときに現在の場所に遷し、1191(建久2)年には、今日に続く上下両宮の配置となりました。頼朝の死後、執権を務めた北条氏をはじめ、足利氏や豊臣秀吉・徳川氏などの時の最高権力者も社殿の修理に努めました。時代を問わず篤い崇敬を受けている、鎌倉のシンボリック存在です。



鎌倉を深掘り

鎌倉時代を想像させる流鏑馬神事

鶴岡八幡宮では、9月の鶴岡八幡宮例大祭で、流鏑馬神事が行われます。1187(文治3)年の放生会(魚や鳥獣を放し、殺生を戒める儀式)に奉納したのが始まりで、狩装束をまとった武者が馬に乗って走りながら、全長約250mの馬場道に立てられた三的を次々に射る姿は、鎌倉時代の息吹を感じさせます。他にも除魔神事や舞楽など、鎌倉時代にさかのぼる行事があります。

※流鏑馬は4月鎌倉まつりでも行われます。



鶴岡八幡宮例大祭 流鏑馬神事

10

1182(寿永元)年

わか みや おお じ

若宮大路

鎌倉時代の都市計画を感じながら歩く

鶴岡八幡宮の上宮から見下ろすと、若宮大路がまっすぐに海に向かって見えます。この道は源頼朝が整備したもので、二ノ鳥居から三ノ鳥居までは段葛と呼ばれる参詣の道が残ります。『吾妻鏡』などによれば、妻・政子の安産を祈願してつくられたものとされます。



若宮大路は、滑川橋のたもとから一ノ鳥居、二ノ鳥居を抜け、鶴岡八幡宮入り口の三ノ鳥居までの約1800m

鎌倉を深掘り

みなものよりとも

源頼朝の都市計画

鶴岡八幡宮前から、由比ヶ浜に向かって南北に延びる若宮大路。頼朝は参道を幅約33mのまっすぐな大路にし、中央には北条時政らの御家人が土や石を運んで段葛を築きました。今も鎌倉を象徴する道です。



1951(昭和26)年

きゅう か な がわけんりつきんだい びじゅつかんかまくらかんほんかん

旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館

戦後の混乱と再生の時代に、 文化芸術の指針となる

終戦からわずか6年、まだ占領下だった日本に、最初の公立近代美術館として神奈川県立近代美術館が開館しました。

きっかけは、神奈川ゆかりの美術関係者が神奈川県美術家懇話会を設立し、美術館建設を目指したこと。メンバーは有島生馬、安井曾太郎、鳥海青児、鏑木清方、前田青邨、伊東深水らの画家や研究者など33名でした。

設計は坂倉準三(1901～1969)。東京帝国大

学文学部美術史学科を卒業後、渡仏。近代建築の巨匠ル・コルビュジエの事務所で修業し、1937年のパリ万国博覧会日本館の設計で博覧会建築部門グランプリも獲得した人物です。2階建て、延床面積1,575㎡という、今日から見ればささやかな美術館は、戦争直後の日本建築界のトピックとなり、開館記念の第1回展として「セザンヌ・ルノワール展」を開催しました。

中庭を中心にして周囲に機能を配した明解な平面構成と、建物の主要部分を2階にして、それを列柱群で支える「ピロティ」を設ける様式は、ル・コルビュジエが提唱した「無限成長美術館」というコンセプトの踏襲でも



11月に県指定重要文化財に指定、12月には県から鶴岡八幡宮に土地の返還と建物の無償譲渡が行われました。その後、旧館の歴史的建築の意匠を保ちつつ、最新の技術によって補強、復原、機能を向上させるため改修工事を行い、2019年6月、新たな文化発信拠点「鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム」として生まれ変わりました。鎌倉の魅力を紹介する新しい使命をもったミュージアム。鶴岡八幡宮の歴史を軸に、これまでの「歴史」と、これからの「未来」へつながる活動を行っています。



ありますが、「自然環境との調和」を意識した坂倉は日本固有の素材を取り入れるなど、モダニズムと日本の伝統が融合する独自の空間を生みだしました。

2階から階段を下りてピロティに出ると、平家池に向かって空間が開けます。晴れた日には、平家池の水紋が反射して、天井にいくつもの光の環を描きます。

かまくらぶん か かん つるがおか

**鎌倉文華館 鶴岡ミュージアムとして、
新たな出発**

鎌倉館は65年間にわたり、国際的な視野を持ちながら常に先導的な美術館活動を行ってきました。しかし、鶴岡八幡宮との借地契約満了に伴い、2016年3月31日に閉館。同年



開館当初の旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館
西側正面入口大階段(上)／南側外観(下)
撮影：村沢文雄(1951年)

1185(文治元)年

こゆるぎじんじゃ
小動神社

腰越を守る神社から、
江の島や伊豆箱根が眺められる



みなもとよりとも
源頼朝が伊豆に流されていた時代から仕えていた佐々木盛綱が、近江の国から八王子宮を勧請。のちに、新田義貞が鎌倉攻めの戦勝を祈願して、社殿を再興しました。現在の名前は明治時代からのもの。



海際にあり、展望台から江の島がよく見える

1185(文治元)年

ぜにあらいべんざいてんうがふくじんじゃ
銭洗弁財天宇賀福神社

お金を洗うと御利益があるという泉

よりとも
頼朝が人々を飢饉から救おうと祈ったところ、宇賀福神が夢枕に立ち、この湧き水を教えました。北条時頼もこの神を信仰し、銭を洗って繁栄を祈りました。現在もお金を洗う人が絶えません。



トンネルをくぐって
境内に入るのも珍しい



1188(文治4)年

じょうみょうじ
浄妙寺 開基/足利義兼 開山/退耕行勇

手入れが行き届いた境内には枯山水も

足利義兼は北条政子の妹の夫。退耕行勇は頼朝と政子夫妻に尊敬された高僧です。元は極楽寺といい、のちに浄妙寺としました。鎌倉五山の第五位にあたります。



手入れが行き届いた枯山水

鎌倉を深掘り

鎌倉五山はどう決まったか

五山とは、臨済宗で最高の寺格を幕府が朝廷にはかって決めた五つの寺のこと。この制度は南宋で始まり、日本でも鎌倉幕府によって取り入れられました。初めは京都と鎌倉の寺を一緒にしていましたが、1386(至徳3・元中3)年に室町幕府によって、南禅寺を別格にして、京都と鎌倉それぞれに五山が定められました。鎌倉五山の第一位は建長寺、第二位は円覚寺、第三位は寿福寺、第四位は浄智寺、第五位は浄妙寺。五山の寺は幕府の管理下におかれました。

鎌倉を深掘り

昔の旅人が見た鎌倉の景色とは

鎌倉時代に書かれた『海道記』には、由比ヶ浜の様子が登場。『海道記』では「數百艘の舟どもつなをくさりて」と浜の栄える様子が。また、由比ヶ浜を一望できるごくらくじざかりどおし極楽寺坂切通などは、長年旅人たちが鎌倉に着いたことを実感できる絶景ポイントだったようです。

成就院の階段から見る、由比ヶ浜と材木座海岸



法華堂跡（源頼朝墓・北条義時墓）

鎌倉の重要人物ふたりの墓

現在、源頼朝の墓がある場所は、法華堂の跡といわれています。頼朝は、聖観音像を自分の守り本尊としてまつるために持仏堂を建て、それが死後、法華堂と称され、供養が行われました。

頼朝の墓そばの開けた場所は、2代執権・北条義時の墓です。義時は、北条政子の兄弟で、頼朝の子・実朝が将軍の時代に執権をつとめました。現在、墓らしいものはありませんが、発掘調査の結果、お堂の遺構が見つかっていて、義時を供養する別の法華堂が建てられていたことがわかっています。



しまづしげひで
薩摩藩主・島津重豪が整備した層塔
(源頼朝墓)



1192^{けんきゅう}(建久3)年

ようふくじあと

永福寺跡 開基^{みなもと}／源頼朝

二階建ての本堂や大きな池
などの跡が

奥州合戦で源頼朝は藤原泰衡^{ふじわらのやすひら}
に圧勝。そのときに頼朝が見た^{ひら}平泉・中尊寺の二階大堂大長寿院^{ちゅうそんじにかいだいどうだいちょうじゅいん}
を模して創建したのが永福寺で
す。二階堂という地名もそのお堂から。発掘調査をもとに建物基壇^{たてものきだん}
の復元整備が行われ、当時の伽藍配置や苑池などを見ることができます。



史跡永福寺跡復元CG(湘南工科大学制作)



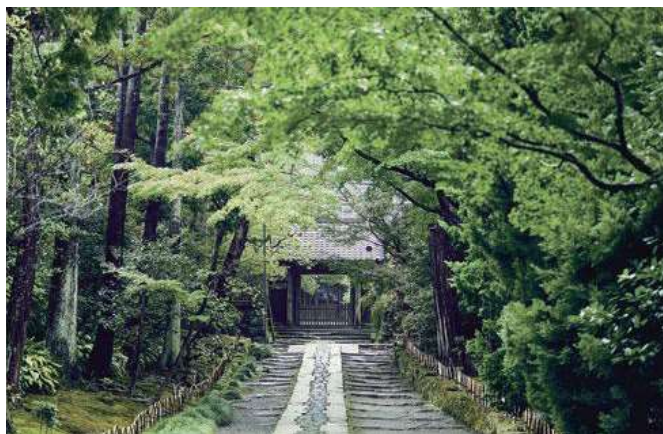
1200^{しょうじ}(正治2)年

じゅふくじ

寿福寺 開基^{ほうじょうまさこ}／北条政子 開山^{みょうあんえいさい}／明庵栄西(ようさいともいう)

北条政子が眠る、鎌倉五山第三位の寺

栄西は二度宋に行った高名な僧。茶を
日本に広めたのも栄西です。禅宗を勧め
たために、天台宗の比叡山延暦寺からの
圧力を受け、59歳で鎌倉に来た栄西を、
源頼家や北条政子、実朝は歓迎しまし
た。山門から石畳の参道が中門まで続い
ています。拝観は中門まで。



鎌倉を深掘り

埋蔵文化財でわかる中世都市鎌倉の暮らし

鎌倉では建物などを建築する際、埋蔵文化財の調査を行うため、
中世の遺跡が見つかることがあります。遺跡から出土する、陶磁
器、漆の塗り物、木製品などから、中世の人々の暮らしが想像でき
ます。2017(平成29)年扇ガ谷に開館した鎌倉歴史文化交流館では、
それらの出土品から、鎌倉の歴史と文化を紹介しています。

鎌倉歴史文化交流館／かまくられきしぶんかこうりゅうかん
鎌倉市扇ガ谷 1-5-1 ☎0467-73-8501



1219^{じょうきゅう}(承久元)年

じょうじゅいん

成就院 開基^{ほうじょうやすとき}／北条泰時

季節の花が迎えてくれる眺望の寺

くわかい 空海が諸国巡礼の折、しゅほう 修法を行ったという場所に北条泰時が建立した寺。本尊は不動明王で、良縁成就の寺として知られています。由比ヶ浜を眺め下ろせる眺望の良さが特色です。



本尊の不動明王の分身前で護摩供養が行われる

1235^{かてい}(嘉禎元)年

みょうおういん

明王院

開基^{ふじわらのよりつね}／藤原頼経 開山^{じょうごう}／定豪

鎌倉時代の特徴をよく表している明王像

かやぶ 茅葺き屋根にしとみど 蔀戸の情緒ある本堂が迎えてくれる、静かなお寺です。本堂には、不動明王など5体の明王をまつ 祀っています。かつては、鎌倉幕府や将軍の鬼門よけの祈願所でもありました。



茅葺きの屋根が、周りの谷戸の緑となじむ

1241(仁治2)年

あさいなきりどおし

朝夷奈切通

往時の面影を残す、金沢街道の切通

みなものよりとも

源頼朝に仕えていた中でも優秀な武士として名をはせた朝比奈義秀が、一晩でつくったという伝説がある朝夷奈切通。この切通は六浦（現在の横浜市金沢区）と鎌倉を結ぶ重要な交通路だった金沢街道の一部でした。現在も自動車が通れないこの切通は、中世のやぐらなどもあり昔の面影を残す場所。六浦は貿易港で塩の産地でもあり、朝夷奈切通は鎌倉へ塩などの物資を運ぶための道としても使われていました。



1243(寛元元)年

こうみょうじ

光明寺 開基／北条経時 開山／然阿良忠

材木座海岸に近い、広々とした境内

鎌倉の大きな寺院のひとつに挙げられる光明寺。北条経時が開基となり、関東の浄土宗念仏道場の中心となりました。山門は鎌倉にある寺院の門として最大です。境内も広々としていて、大殿(本堂)も鎌倉一大きい木造建築で、国の重要文化財に指定されています。本堂北側には蓮池を中心とした記主庭園、南側には石庭があります。裏山に登ると、木々の間から材木座海岸や稲村ヶ崎、遥かには富士山を眺められます。



光明寺の記主庭園。7月にはハスの花を觀賞する
観蓮会が開かれる



やまぐちひとみ

山口瞳 1926(大正15)年～1995(平成7)年

第二次世界大戦後間もない1946(昭和21)年、光明寺を仮校舎として「鎌倉アカデミア」が開校。卒業生には、映画監督の鈴木清順、作曲家のいずみたく、作家の山口、タレントの前田武彦ら。山口は、この学校で歌人の吉野秀雄に学び、後に『江分利満氏の優雅な生活』で直木賞を受賞しました。

山口は、この学校で歌人の吉野秀雄に学び、後に『江分利満氏の優雅な生活』で直木賞を受賞しました。



鎌倉を深掘り

鎌倉を特徴づけている切通きりどおしという場所

三方を山に囲まれた鎌倉の地形は、鎌倉が幕府所在地として選ばれた理由のひとつといわれています。当時の鎌倉は、10万人もの人が住む都市として栄え、多くの人や物資が行き来するために山を切り開いて道を通しました。今も残る切通は、中世からの道です。武蔵と結ぶ「亀ヶ谷坂」「仮粧坂」「巨福呂坂」、藤沢、京都方面と結ぶ「大仏切通」「極楽寺坂切通」、三浦半島へと通じる「名越切通」、六浦（現在の横浜市金沢区）への交通路「朝夷奈切通」は「鎌倉七口」と呼ばれ、鎌倉が外部とつながる重要な道でした。比較的軟らかい凝灰岩の鎌倉石は削りやすく、切通を歩くと岩肌を目前に見ることができます。



※巨福呂坂は通り抜けできません



この宝篋印塔は鎌倉時代後期～南北朝期の作
※裏山にある冷泉為相の墓。木・土・日曜の公開

1251^{けんちょう}(建長3)年

じょうこうみょうじ

浄光明寺 開基／北条長時^{ほうじょうながとき}、北条時頼^{ときより} 開山／真阿^{しんあ}

おうぎがやつ

扇ガ谷にある静かな古寺

北条氏や足利氏の菩提寺。収蔵庫には鎌倉時代の阿弥陀三尊像が祀られ、鎌倉独特の土紋装飾が特徴です。山中に、『十六夜日記』の作者・阿仏尼^{あぶつに}の息子、冷泉為相^{れいぜいためすけ}の墓といわれる宝篋印塔^{ほうきょういんとう}があります。



1253^{けんちょう}(建長5)年

あんこくろんじ

安国論寺 開山／日蓮^{にちれん}

なごえ まつば がやつ

名越の松葉ヶ谷で日蓮の足跡をたどる

日蓮が鎌倉で構えた庵^{いおり}の跡に立つ寺。境内の岩屋で『立正安国論』^{りっしょうあんこくろん}を書いたといわれ、政治と既存仏教の問題点を北条時頼^{ほうじょうときより}に訴えました。富士見台からは、鎌倉駅方面から由比ガ浜、遠くは伊豆半島や富士山まで見えます。

鎌倉らしい趣が色濃く残る境内では、四季折々の花が楽しめます。



本堂。右手に山道があり、南面窟に至る

鎌倉を深掘り

武士の宗教・禅宗

源氏三代^{げんじ}が滅びると、執権として幕政を担うことになった北条氏は、当時最先端^{ほんしゅうせん}の禅宗や中国文化を取り入れるため、現在の北鎌倉に禅宗寺院を次々と創建。蘭溪道隆^{らんけいどうりゅう}や無学祖元^{むがくそげん}など宋から来朝した僧を呼んで開山としました。座禅を組んで精神統一を図り、悟りを得ようとする禅は、修行をして初めて救いが得られるという点で、日々鍛錬が必要な武士の信条と共通するものがあり、武士に受け入れられていきました。

1259^{しょうげん}(正元)年

ごくらく じ
極楽寺 開基／北条重時^{ほうじょうしげとき} 開山／忍性^{にんしょう}

貧しい人々を助けた、慈悲の寺

鎌倉では珍しい真言律宗の寺院。開山の忍性は、福祉や医療、さらには橋や道の整備など幅広い分野の社会事業を行っていました。かつては広い敷地をもち、加療・施薬をする病院施設もあったことが古絵図に描かれています。また、元（モンゴル帝国）が日本に襲来したとき（元寇^{げんこう}）、幕府・朝廷の命令で、忍性は異国退散の祈祷を行っています。



かやぶ 茅葺きの山門を入ると、サクラ並木がある

1260^{ぶんおう}(文応)年

みょうほん じ
妙本寺 開基／比企能本^{ひきよしもと} 開山／日蓮^{にちれん}

比企一族の悲劇を伝える谷戸^{やと}

源頼朝^{みなもとよりとも}に仕えた比企一族が北条時政^{ほうじょうときまさ}に滅ぼされた際、生き残った比企能本が日蓮に寄進した自邸跡でもあります。初夏のシャガ、秋の紅葉が見事。事前に予約すれば、写経体験ができます。



祖師堂は重量感ある瓦屋根と力強い構造が特徴





春の日の大仏（銅造阿弥陀如来坐像）

1252^{けんちょう}（建長4）年

かまくら だいぶつ

鎌倉大仏 開基・開山／不詳
（銅造阿弥陀如来坐像）



美男と評判の仏を訪ねる

鎌倉大仏は国宝。つくられた当時の姿をほぼ保っているものの、1252（建長4）年に^{ちゅうぞう}鑄造が開始されたこと以外は謎につつまれています。初めは木造だった大仏を青銅仏にしたといい、胎内に入ると高度な鑄造技術がうかがえます。現在は露坐の大仏ですが、もともとは大仏を覆う大仏殿がありました。鎌倉幕府が滅びた後、台風や大津波により倒壊したといわれています。境内のあちらこちらに残る礎石^{そせき}から、大仏殿の規模が想像できます。



よさのあきこ
与謝野晶子

1878（明治11）年～

1942（昭和17）年

歌人の与謝野晶子は

〈かまくらや みほとけなれど 釈迦牟尼は美男におはす 夏木立かな〉と詠みました。その歌碑が高徳院境内にあります。



鎌倉を深掘り

鎌倉大仏を側面から見ると、ずいぶん前かがみなのわかります。鼻が高く、エキゾチック。自然なふくよかさで人間らしい顔です。姿勢や顔立ちは中国（宋）の影響を受けています。

1253^{けんちょう}（建長5）年

けんちょうじ

建長寺

開基／

ほうじょうときより

北条時頼

開山／

らんけいどうりゅう

蘭溪道隆

五山一の威容を誇る禅宗大寺院

鎌倉五山第一位、臨済宗建長寺派の本山。宋から来日した蘭溪道隆が禅を広めた寺で、幕府と強く結び付きしました。本尊は地藏菩薩坐像です。堂々とした三門、仏殿、法堂が一直線に並び、道隆が種をまいたというジャクシンの巨木がそびえます。野菜や豆腐入りのけんちん汁はここが発祥といわれています。毎週金・土曜に坐禅会があります。



本尊地藏菩薩坐像を祀る仏殿



1282(弘安5)年

えん がく じ

円覚寺

開基／北条時宗

開山／無学祖元

や と

谷戸の奥へと続く、鎌倉らしい趣

二度の元寇(元との戦い)で亡くなった
両軍の兵士を弔うため、第8代執権北条時
宗が宋から無学祖元を招いて建てた禅宗
寺院。臨済宗円覚寺派の本山で、鎌倉五山
の第二位。本尊は宝冠釈迦如来坐像。妙香
池、白鷺池などの池があり、国の名勝に指
定されています。国宝の舍利殿は、室町時
代の名建築・大平寺(廃寺)の仏殿を移築
したものです。早朝や土・日曜に坐禅会が開か
れます。



仏殿の宝冠釈迦如来坐像は、
冠をいただく珍しい姿



円覚寺の山門



なつめ そうせき

夏目漱石

1867(慶応3)年～1916(大正5)年

小説家の夏目漱石は、円覚寺へ参禅の際、円覚寺
塔頭帰源院へ止宿。

〈山門を入ると、左右には大きな杉があつて、高く空を遮っている
ために、路が急に暗くなった。その陰気な空気に触れた時、宗助は
世の中と寺の中との区別を急に覚った。〉(『門』夏目漱石)



しまざきとうそん

島崎藤村

1872(明治5)年～1943(昭和18)年

島崎藤村も円覚寺塔頭帰源院に滞在した経験をも
つ小説家です。『春』『桜の実の熟する時』に、鎌倉の風
景や人々が描かれています。藤村が鎌倉を訪れるよう
になったのは、「文学界」同人の星野天知の別荘があったためでした。



1281^{こうあん}(弘安4)年

じょうち じ
浄智寺

開基／北条宗政、北条師時

開山／兀庵普寧、大休正念、南洲宏海

山寺のような風情の参道が
心を静める

鎌倉五山の第四位。北条時頼の
子・宗政の菩提を弔うために建て
られた臨済宗円覚寺派の寺です。
1323(元亨3)年に行われた北条
貞時13回忌の際、参加した僧侶は
200人を超え、建長、円覚、寿福の
三寺に次ぐ規模を誇りました。仏
殿の阿弥陀如来、釈迦如来、弥勒如
来の三世仏は県の重要文化財、境
内は国の史跡に指定されていま
す。境内には鎌倉一の大きさのコ
ウヤマキやハクウンボクがあり
ます。小説家・澁澤龍
彦の墓があることで
も知られています。



過去現在未来を示す三世仏は、鎌倉時代の特徴を表す



鎌倉七福神のひとつ、布袋像がやぐらの中に

1285^{こうあん}(弘安8)年

とう けい じ
東慶寺

開基／北条貞時 開山／覚山尼

宝蔵も見学したい四季折々の花の寺

江戸時代は「駆込み寺」として広く知
られていました。開山の覚山尼は北条
時宗の妻。後醍醐天皇の皇女・五世用
堂尼以来、一層寺格が高まり、江戸時
代には徳川幕府の庇護を受
けました。寺宝を展示する
松岡宝蔵も必見。



控えめな山門をくぐると、
四季の花が迎えてくれる

1296(永仁4)年

かく おん じ
覚園寺

開基／北条貞時

開山／智海心慧

かや ぶ
茅葺きのお堂に心和む境内

2代執権北条義時が十二神将の戌神将のお告げを受けて建立した薬師堂を前身とする寺院です。本尊は薬師如来で、鎌倉時代の様式です。参拝は時間制で、案内してくれます。



本尊は薬師三尊像、周りには十二神将が並ぶ

1327(嘉暦2)年

ずい せん じ
瑞泉寺

開山／夢窓疎石

梅、水仙、新緑などが美しい花の寺

足利基氏をはじめ、代々の鎌倉公方の菩提寺として、高い格式を誇りました。夢窓疎石が岩盤を削ってつくった岩の庭は、書院庭園のもととなり、国の名勝に指定されています。竹林やモミジでも知られています。



モミジが多く、錦屏山という山号もそれにちなむ

やまざき ほうだい
山崎方代

1914(大正3)年～

1985(昭和60)年



放浪の歌人・山崎方代は、鎌倉・手広の「方代草庵」に住みました。瑞泉寺には、〈手のひらに豆腐をのせていそいそといつもの角を曲りて帰る〉の歌碑があります。

おお まち しゃ か どう ぐち い せき
大町釈迦堂口遺跡

風が通り抜けていく切通

大町から浄明寺に向けてトンネルが掘られています。トンネルの上部も含め周辺には数多くのやぐらがあります。現在は土砂崩れの危険があるので、通行禁止です。

1334^{けんむ}(建武元)年

ほうこくじ

報国寺 開基／^{あしかがいえとき}足利家時 開山／^{てんがんえこう}天岸慧広

風に鳴る竹の葉の音が印象的

古くから境内の^{もうそうちく}孟宗竹の林が有名で、「竹庭の寺」と呼ばれています。本尊は釈迦如来坐像。開山の天岸慧広は元に留学した僧で、慧広自筆の詩集『東帰集』は、国の重要文化財になっています。



竹に見とれるひととき。裏山にやぐらが点在する

1335^{けんむ}(建武2)年

ほうかいじ

宝戒寺 開基／^{ごだいごてんのう}後醍醐天皇 開山／^{えんかんえちんじい}円観慧鎮慈威

初秋の白いハギの花で知られる寺

後醍醐天皇^{ほうじょう}が北条一族の霊を弔うために、足利尊氏に命じて執権北条氏の屋敷跡に建立させたといわれる寺。初秋にはシロハギが参道脇に咲き、ハギの寺として知られます。本尊は子育て地蔵として信仰される地蔵菩薩坐像(国の重要文化財)。



秋には、本堂前や参道にシロハギが咲き乱れる

^{ごだいごてんのう}
後醍醐天皇

1288(正応元)年～1339(暦応2・延元4)年

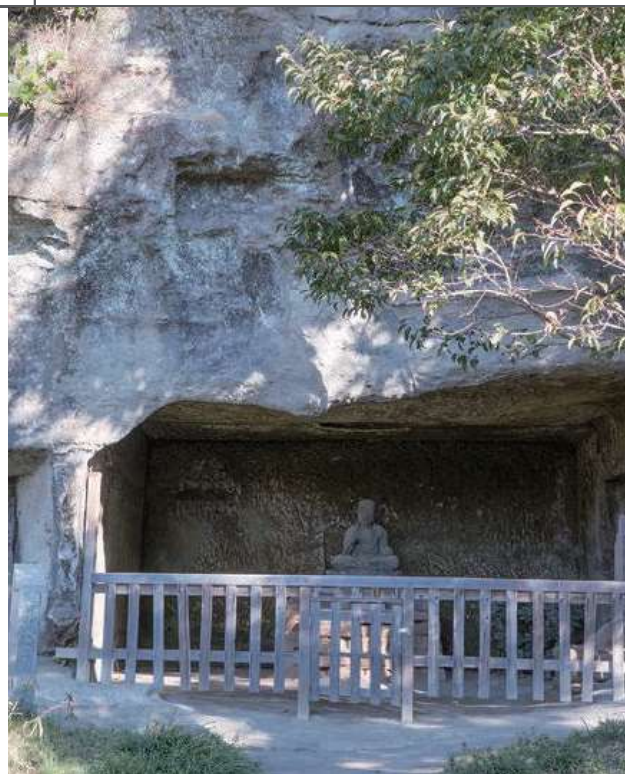
宝戒寺は、後醍醐天皇が建てさせた寺。後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒そうとして隠岐に流されましたが、天皇の呼びかけに応じた^{にったよしさだ}新田義貞によって鎌倉幕府は滅亡します。〈うづもるる身をば歎かずなべて世のくもるぞつらき今朝のはつ雪〉『新葉和歌集』



鎌倉を深掘り

中世に出合うやぐら、石塔

多くの谷が連なる鎌倉。「谷戸」^{やと}と呼ばれる谷の斜面を削って掘った、やぐらをよく目にします。これは中世に造られたもの。やぐらは僧侶などの支配層の埋葬や供養の場で、壺に入れられた火葬骨が五輪塔などとともに納められています。覚園寺、浄光明寺、瑞泉寺など谷に建てられた寺の裏に多くあります。主なやぐらには北条政子^{ほうじょうまさこ}や源実朝^{みなもとのさねとも}の墓といわれる寿福寺やぐら群、仏像や五輪塔などが刻まれている瓜ヶ谷^{うりがやつ}やぐら群、覚園寺奥の百八やぐら群などがあります。



浄光明寺の綱引地藏やぐら

鎌倉を深掘り

力強さから中国風へ —— 鎌倉時代の美は個性的！

源頼朝^{みなもとのよりとも}は、鎌倉に鶴岡八幡宮、勝長寿院^{しょうちょうじゅいん}（廃寺）、永福寺^{ようふくじ}（廃寺）などの大きな社寺を建立。京都や奈良から工人などを招いたため、鎌倉時代初期には京都の文化が鎌倉に伝わりました。

なかでも、仏像製作の中心は、奈良仏師の成朝やその流れを引く運慶^{うんけい}です。力強い表情や量感のある体つきの仏像を作りだした運慶とその一門の仏師は、鎌倉の武士たちに支持されました。

その後、5代執権北条時頼^{ほうじょうときより}が、宋から渡航した中国僧・蘭溪道隆^{らんけいどうりゅう}を招いて建長寺を開いたのが契機となり、禅文化が入ってきました。日宋交易によって、宋ブームが起こります。宋風の彫刻は、人間らしい表情や複雑で流れるような衣服、異国情緒が特徴で、13世紀半ばから14世紀にかけて、鎌倉と関東地方の仏像の主流になりました。代表的なものには、円応寺の「初江王坐像」^{しよこうおうざざう}（国重要文化財、鎌倉国宝館寄託）、浄光明寺の「阿弥陀如来および両脇侍坐像」^{えんのうじ}（国重要文化財）などがあります。

同じ時期に頂相^{ちんそう}彫刻が生まれました。頂相とは印可状（悟りを認める証明書）とともに弟子に与えられた禅の師の肖像画で、その彫刻版が頂相彫刻です。円覚寺「仏光国師坐像」^{ぶつこう}（国重要文化財）、建長寺「大覚禅師坐像」^{むそう}（国重要文化財）、瑞泉寺「夢窓国師坐像」^{むそう}（国重要文化財）など、写実を追求した表現が特徴です。



「初江王坐像」(国重要文化財)円応寺蔵